（別紙３）

公表　事業所における自己評価総括表

○事業所名	あぷれんどこくらみなみ			
○保護者評価実施期間	令和7年　2月　7日		～	令和7年　3月　7日
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	31名	（回答者数）	29名
○従業者評価実施期間	令和7年　2月　7日		～	令和7年　2月　28日
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	7名	（回答者数）	7名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年　4月　30日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個別療育が充実しており、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士などのリハビリ専門職が在籍し、認知神経リハビリテーションを用いた専門的支援を提供 集団療育では、多職種の有資格者が発達を支える視点で、評価し支援を実施している	アセスメントに基づいた個別支援計画の作成と見直しを定期的に実施 保護者との連絡、連携を重視し、フィードバックを日々の記録や連絡帳で細目に共有	面談等の直接的な相談案件を積極的に取り入れ、子どもの現在の様子や将来に向けた話し合いの場を設ける 個別療育と集団療育の接続性の向上を狙っており、両方の支援が連動することで、スキルの汎化や応用力の育成を目指す
2	小集団である為、一人一人への目が届きやすく、安心、安全な環境の中での支援が可能	子ども同士の関わりを大切にした集団プログラムの実施 （協調的な関わりや遊び、役割分担、発表活動など）	職員研修や事例検討会の実施により支援の質向上を図って行く
3	発達段階に応じた個別目標の設定を細かく評価しており、年齢や特性に応じた段階的なスモールステップの目標設定が行える	子どもの成功体験を意識したプログラムづくり「できた」「わかった」を引き出す活動設計	地域との連携強化を図り、学校・医療・福祉との連携体制を広げ、切れ目のない支援ネットワークを構築していく

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	多職種で構成されているがゆえに、支援の視点や方法に一貫性を持たせる事が難しい場面がある	スタッフ間での支援アプローチや専門的視点に差があり、共通の支援方針を持つことが難しい	支援方針や対応方法の整備・共有を進め、スタッフ間での認識を統一しつつ、柔軟な対応も継続する
2	一部の保護者との連携が難しく、支援方針とのギャップが生じる場面がある	保護者のニーズや理解の多様性により、個別の対応に追われ統一的な支援が困難となる	保護者との信頼関係構築に努め、連絡帳やアンケート等のみならず、必要に応じて面談の機会を設けていく
3			